

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01184

研究課題名（和文）道教の比較研究から見るヤオ族儀礼文献学の構築

研究課題名（英文）Constructing the Philosophy of Yao Ritual Texts based on Comparative Studies of Taoism

研究代表者

浅野 春二（Asano, Haruji）

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：30289714

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,700,000円

研究成果の概要（和文）：道教の比較研究を通して、主に次のような研究成果を得た。（1）ミエン・ヤオ族の儀礼文献については、ミエン・ヤオ族の歌謡文化との関わりの重要性が再認識された。漢族から受容した宗教儀礼のテキストを単に歌っているものではなく、むしろ彼ら独自の歌の文化そのものが宗教儀礼の中核をなしており、そこに彼らの宗教儀礼の特徴が見いだせた。（2）ランテン・ヤオ族の儀礼文献については、漢族の儀礼文献を歴史的・地域的に広範囲に受容していることを、科儀文献の内容によって確認した。その一方でランテン・ヤオ族が、彼ら独自の儀礼理論に裏付けされた儀礼文献を生み出し使用していることを、秘語文献の研究を通じて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ヤオ族の儀礼文献については、従来多くの録文が作成され、資料の蓄積が行われてきたが、その内容を翻訳し解読することは行われてこなかった。本研究では儀礼文献の翻訳・解読を行うことで、ヤオ族儀礼文献の特徴の解明を進めたことに特に学術的な意義がある。さらにミエン・ヤオ族の歌謡文化の研究を深め、絵画資料の整理・研究を進め、儀礼文献の多角的解釈の基礎を固めた点も非常に重要である。儀礼文献の研究を通じて、ヤオ族の伝統文化の価値を確認し、その保存・継承の必要性を示したことに社会的な意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Through the comparative study of Taoism, the following research results were mainly obtained. (1) Regarding the ritual literature of the Mien Yao, the importance of their relationship with the singing culture of the Mien Yao was reaffirmed. The Mien Yao do not simply sing the texts of religious rites they have received from the Han Chinese, but rather their unique singing culture itself forms the core of their religious rites, and in this we found the characteristics of their religious rites. (2) The content of the Lanten Yao ritual literature confirms that they have accepted a wide range of Han Chinese ritual literature both historically and regionally. On the other hand, we found that the Lanten Yao produced and used ritual literature supported by their own ritual theory through the study of secret language literature.

研究分野：道教儀礼文献

キーワード：ヤオ族 ミエン ランテン 道教 法教 儀礼文献 儀礼理論 歌謡

1. 研究開始当初の背景

ヤオ族は中国東南部からベトナム・ラオス・タイに居住するアジア東南地域における主要民族の一つであり、元来は焼畑耕作に伴う広域の移動と拡散を行ってきた。宗教的には、漢族の宗教である道教(ここでは道教と密接にかかわる民俗宗教である法教も含めて「道教」と称する。すなわち広義の「道教」である)を自らの宗教としている点が注目される。特にヤオ族の成年男子がすべて祭司となる総体的祭司制は、後漢の初期天師道(五斗米道)の信者組織と類似していることについては、道教研究者の強い関心を集めてきた。

ヤオ族道教の儀礼文献は漢字で表記されており、もともとは漢族に由来するものと考えられるが、ヤオの人々はそれを情熱をもって伝承してきた。近代以前から、ヤオの男性は、ほとんど宗教的儀礼にしか用いない漢字を代々習得し続け、膨大な量の漢字文献を現在に伝えている。

この儀礼文献そのものは貴重な資料として注目され、すでに多数の録文が作られているが、儀礼文献の内容に踏み込んだ研究はなされていない。儀礼文献の重要性は認められながらも、その内容の解明はなおざりされてきている。これを翻訳・解釈してその内容を把握して研究する必要があり、難解な儀礼文献をどのようにして読んでいくのかという方法の確立も求められている。

2. 研究の目的

本研究は、以下の(1)から(3)を主要な目的とする。

(1) ヤオ族道教の儀礼を儀礼文献の読解に基づいて解明する。

これはごく基本的なことであるが、従来の研究ではほとんどなされてこなかった。これは儀礼テキスト自体が難解であり、なおかつその使用方法が複雑であることに起因する。ただ単に一つの儀礼で一つのテキストがそのまま読み上げられて儀礼が行われるのではないのである。従来の研究によって、漢字で書かれた儀礼テキストの録文そのものは多数存在しており、儀礼の説明に際してそれを引用することはなされている。しかしながら、儀礼テキストはただそのまま掲げられるだけで、その内容の読解はなされず、儀礼内容の説明は、もっぱら聞き取り調査で得られた情報に基づいてなされている。録文も各地のヤオ族道教の資料として報告書等に収められているが、その相互の比較検討による校訂などはほとんど行われていない。儀礼文献の資料としての重要性は認められながらも、儀礼文献自体の読解はほとんどなされていないのである。本研究では欧米の博物館・図書館に収蔵されているものも含め、ヤオ族道教の儀礼文献を広く収集し、研究上重要性の高いものについて翻訳・解釈の作業を進め、これに基づいてヤオ族道教の儀礼文献に記されている内容を把握していく。これは従来の研究でほとんどなされていないことである。

(2) 実際に行われている儀礼の調査、ならびに祭司の儀礼知識・儀礼解釈からヤオ族道教の儀礼文献を解明する。

従来の研究でも祭司からの聞き取りに基づく宗教的儀礼の研究は行われてきている。しかしそれは、儀礼の意味・目的や概略的な手順・方法に関するものにとどまっている。儀礼の全体的なシステムの解明はまだ行われていない。我々の現在までの調査によって、ヤオ族の道教儀礼は、漢族の道教儀礼とはかなり異なった儀礼のシステムを有していることが分かってきている。そこで、本研究では、実際の儀礼の観察や祭司からの聞き取り調査によって儀礼システム・神観念・霊魂観等を把握し、儀礼文献を読解していく。

(3) 道教の比較研究により、ヤオ族道教の儀礼文献を解明する。

従来の研究では、ヤオ族の道教はただ単に漢族の道教がヤオ族に移植されたものと考えられ、ヤオ族道教そのものについては注意が払われてこなかった。本研究では、時間的・空間的に道教儀礼文献を比較し、ヤオ族道教の特質を解明する。

3. 研究の方法

当初の計画では中国、ベトナム、タイでの現地調査を行い、祭司による文献の解釈を援用して読解を進めることも予定していた(前記(2))が、新型コロナウイルスの流行によって十分な現地調査を行うことができなかった。そこで過去の調査で収集した資料を最大限に利用して儀礼文献の読解を行うこととした。また、儀礼文献の読解に必要なミエン・ヤオ族の歌謡文化の研究を進めるとともに、国内にあるヤオの神像画の調査を行った。さらに明代から現代に至る各地の道教儀礼文献によって比較研究を行った。

4. 研究成果

本研究の主たる成果の概要は以下の通りである。

・ランテン・ヤオ族の道教科儀書の形成史の研究成果と問題提起

2020年度において行った道教儀礼文献の広範囲での比較研究では、明代中期の浙江、清代から現代におよぶ時期の浙江中部、福建南部、台湾南部の清醮の朝科の科文を精密に調査する研究作業の中で、雲南文山のランテン・ヤオ族の道公が現在用いている、寿命を延ばすために斗星などに祈願する延生早朝の科儀文献の科文に重複し共通する文章内容があることを確かめることができた。これはランテン・ヤオ族がどのような漢族側の歴史的な科儀文献を受容したのかを実証するときに重要な意味を持つ成果であると考えられる。ランテン・ヤオ族は科儀文献の次元では、漢族の最大規模の儀礼伝統を継承している面を示唆するからである。

・ミエン・ヤオ族の上光儀礼テキストの現代日本語訳の研究成果と問題提起

研究作業として白鳥芳郎『傜人文書』(講談社1975)所収の『開壇書』から還願における上光儀礼の歌(七言句を用いる)部分を選択して、現代日本語に訳し、かつ簡単な説明を付すことを試みた。この資料は北部タイのミエン・ヤオ族の資料集として、国際的にも非常に著名であるが、内容を翻訳し解読することは行われなかったため、試みるに値すると判断した。2021年度は接師父(冥界から師父たちを壇に迎える)の歌を対象とした。これには17の分節があり、五層の門、露水、渡し場など、李姓の師父、上中下の路、祖父と父の世代の師父、各種の師爺、童子と五傷など、冥界への旅や迎える対象の師父ごとに構成されている。また2022年度は、同書の、上元二聖を迎える、先鋒を迎える、大話(ほら吹き)の歌、神棍(法師の使う棍)の歌、七官を迎える、何物(壇の装置についてのなぞかけ)の歌、酒の容器を開ける歌までを訳した。フィールドを行った経験のある中国湖南省藍山県の資料と簡単な比較も行った。

儀礼文献として評価する場合に、上述の資料から分かるのは、第一に、歌の内容はきめ細かく分節化されていて、それが儀礼行為の分節と呼応することである。さらに第二に、儀礼行為の法師が壇に師父たちを迎える際に、冥界に行って迎えてつれてくる旅をすることから、シャーマニズム的な考え方が基礎にあることが特徴である。第三に、李姓の師父たちや、重要な役割を果たす上元二聖などの存在が生き生きと描写されるが、これらは、ミエン・ヤオ族独自の存在である可能性が高く、ほかの隣接地域の資料(湖南省中部の漢族や広西のチユワン族の道教・法教の資料)には、管見の限りは見当たらない。第四に、個別事例は翻訳

に示したように、歌にはユーモア、アイロニー、エロスなどの要素が多く現れており、またそれが儀礼の単調な峻厳さとはほど遠いように感じられる。さらに謎解きなどの要素もあって、問答をして二人以上で歌うという形式も含まれる。

総括的に見ると、取り上げた儀礼文献の内容は、もちろん儀礼行為と呼応関係にあるために宗教儀礼のための表現の一種ではあるが、しかし、ただ単に宗教儀礼の歌というよりも、むしろ世俗的な内容の歌の文化が、宗教儀礼の歌の中に非常に多く侵入してきて乗っ取ってしまった結果であり、そうした工夫によってミエン・ヤオ族の宗教の特徴もまたはっきりと示されるのであろうと考えられる。儀礼の際に、濃厚な歌の文化を持った人々が、法師たちを取り囲んで、法師の歌を評価したり、掛け合いなどに自然に参加したりしてきたことは、こうしたことの根本的な原因の一つと推測できる。隣接する地域や人々の道教や法教の儀礼文献と比較する際に、こうした宗教と人々の歌謡文化の混融のあり方に対して、より一層注意することが重要となる。このことは研究作業を通じて強く認識された。

・ランテン・ヤオ族の伝度に関する秘語文献の研究成果と問題提起

2022年度にオンライン会議で2回にわたり発表し討論したのは、ランテン・ヤオ族の伝度の秘語である。これはオックスフォード大学のボードレアン図書館で2010年8月に撮影した『受械(戒)秘 文巫二教』(1868年)を資料とした。以下に、重要な成果を示す。

第一に、師教の伝度では、弟子に開光した後、五台山に連れて行き、山頂から飛翔して冥界巡りのシャーマニズム的な試練の旅を弟子が行う。弟子は冥界でどのような神に出会ったかを師から問われて答える必要がある。この世に戻ると、臍の緒を切られ、生誕することになる。その後、必要な文書や部下になる兵を受ける。秘語で興味深いのは、師弟の問答が書かれた部分であり、これは道公の伝度の方にはない。ランテン・ヤオ族の弟子の試練は、ミエン・ヤオ族の度戒でも度勒床と称する冥界への旅と帰還が課されるのと構造的に共通するため、興味深い。

第二に、道公の伝度では、師は弟子を開光した後で、道教の三清を母親として弟子を投胎させることが特徴である。弟子は、三回にわたり三清から生まれることになる。生まれた後は、弟子は新任官として位に就き、必要な役所や書類、田地などを受け取り、師について儀礼の模擬演習を行う。

伝度に関してもランテン・ヤオ族は、秘語において、弟子の誕生という基調的な枠組みを巧みに表現しており、高度な儀礼理論に裏付けられた儀礼文献を生み出し使用しているといえる。

このような儀礼文献を中国の周辺地域に移動しながら生活してきた少数の民族集団がつくりあげていることを今後より詳細に多方面からあきらかにするべきであろう。

上記のほかに、ミエン・ヤオの歌謡の研究を推進し、その成果を研究論文にまとめて公表した。また、国内に所蔵されているミエン・ヤオの神像画を借用し、アーツキャンによってデータ化した。それに基づいて神像画の図録を作成して国内外の研究者に送付した。ミエン・ヤオ族においては、その歌謡文化が宗教的儀礼の中核に存在していることは明らかであり、歌謡の研究が儀礼文献の読解に不可欠である。神像画も儀礼の内容と密接に関わっており、その図像を資料として活用することは、儀礼文献の解釈に深く関わっている。さらに比較研究の資料とするために、他の地域の道教儀礼資料や道蔵所収の歴史的儀礼文献の調査・研究を行った。今後のさらなる研究の進展に活用していきたいと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 吉野 晃	4. 巻 75
2. 論文標題 タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(6) 「五月捨傳出来的歌」の発音, 注釈, 転生観および修辞法	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 231-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 吉野 晃	4. 巻 10
2. 論文標題 タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(7) 「趙富安旺の歌」の発音と 注釈	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 88-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 吉野 晃	4. 巻 10
2. 論文標題 ミエンの『尚鬼(家先)書』の二種類のテキスト	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 113-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 廣田 律子	4. 巻 40
2. 論文標題 儀礼における資料と方法試論ーミエン・ヤオ研究を事例として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 歴史と民俗	6. 最初と最後の頁 213-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣田 律子	4. 巻 32
2. 論文標題 研究ノート ミエン・ヤオの歌文化の研究() - 『大歌書』に見える諸王 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 麒麟	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山 宏	4. 巻 9
2. 論文標題 上光儀礼における「接上元二聖」から「開酒歌」までの現代日本語訳	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 107-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉野 晃	4. 巻 9
2. 論文標題 『親家礼書』の三種のテキスト	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 53-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉野 晃	4. 巻 9
2. 論文標題 「定詞歌と即興歌の間に」補遺 「唐王歌」のJ語彙分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 88-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉野 晃	4. 巻 9
2. 論文標題 資料 漢字化しにくいミエン語の歌詞の例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 97-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣田 律子	4. 巻 21
2. 論文標題 疫病退散祭祀における神兵の役割 中国に居住するミエン・ヤオと周辺の事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東アジア比較研究	6. 最初と最後の頁 22-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣田 律子・倉澤 茜	4. 巻 9
2. 論文標題 女性歌書の対校	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 130-266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅野 春二	4. 巻 8
2. 論文標題 「招兵」儀礼に見られる陰兵を招く方法について 中国湖南省藍山県の過山ヤオ族を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 89-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山 宏	4. 巻
2. 論文標題 玉清贊化九天演政心印集経（文献解題）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 黎志添(編)『道蔵輯要・提要』上冊 香港中文大学出版社	6. 最初と最後の頁 589-603
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山 宏	4. 巻
2. 論文標題 玉清贊化九天演政心印宝懺（文献解題）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 黎志添(編)『道蔵輯要・提要』上冊 香港中文大学出版社	6. 最初と最後の頁 604-614
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山 宏	4. 巻
2. 論文標題 九皇新経註解（文献解題）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 黎志添(編)『道蔵輯要・提要』上冊 香港中文大学出版社	6. 最初と最後の頁 633-645
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山 宏	4. 巻 8
2. 論文標題 上光儀礼における「接師父」の現代日本語訳（研究ノート）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 168-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉野 晃	4. 巻 8
2. 論文標題 飄遙過海神話を伝えるメディア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 16-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉野 晃	4. 巻 73
2. 論文標題 定詞歌と即興歌の間に タイ北部, ミエンの歌謡における歌詞の多様性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 101-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣田 律子	4. 巻 8
2. 論文標題 歌謡に見える飄遙過海神話	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 瑶族文化研究所通讯	6. 最初と最後の頁 160-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣田 律子	4. 巻
2. 論文標題 ミエン・ヤオの浄化儀礼に関する研究 道教・法教儀礼との比較から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山田直巳 (編著) 新典社研究叢書344 『歌・呪術・儀礼の東アジア』 新典社	6. 最初と最後の頁 90-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山 宏	4. 巻 132
2. 論文標題 台南道教科儀形成史初探－台南と浙江磐安の朝科科文の比較を中心に－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東方宗教	6. 最初と最後の頁 50-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野 晃	4. 巻 20
2. 論文標題 廟 における女性シャマンの組織と儀礼の変化－タイ北部、ミエン（ヤオ）社会における新たな宗教現象に関する中間報告－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報 タイ研究	6. 最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 浅野 春二
2. 発表標題 神虎召魂法における壇と呪法 南宋期の道教儀礼から
3. 学会等名 國學院大學中國學會
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 丸山 宏
2. 発表標題 秘語文献から見る藍テンヤオ族の治病儀礼 － 『救患秘語』と『癩瘋秘語』の初歩的考察－（従秘語文献看藍dian瑶族の治病儀式－ 『救患秘語』与『癩瘋秘語』的初歩探討－）
3. 学会等名 International Workshop on Yao Healing Rituals (香港・香港大学) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 丸山 宏
2. 発表標題 藍テンヤオ儀礼テキスト中の性別表象初探 『救患秘語』を中心とする考察 (藍dian瑶儀式文本中の性別表象 - 以『救患秘語』為中心之考察 -)
3. 学会等名 「道教、女神与女人」國際學術研討會(台湾・国立政治大学)(國際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 丸山 宏
2. 発表標題 藍テンヤオ族の宗教儀礼文献について 『救患秘語』に対する初歩的考察
3. 学会等名 第59回社会文化史学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 廣田 律子
2. 発表標題 治病儀礼事例紹介 瘟神・瘟船・魂を取り戻す儀礼から
3. 学会等名 International Workshop on Yao Healing Rituals(香港・香港大学)(國際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 廣田 律子
2. 発表標題 試論儀式資料与方法
3. 学会等名 “百川交hui”主題學術論壇(広西民族大学)(國際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 廣田 律子
2. 発表標題 治病儀式案例紹介 以送瘟神、送瘟船、収魂儀式為例
3. 学会等名 “百川交hui”主題學術論壇（広西民族大学）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 丸山 宏
2. 発表標題 秘語文献から見る藍テン瑶族の伝度儀礼 その1. 師教
3. 学会等名 第97回ヤオ族文化研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丸山 宏
2. 発表標題 秘語文献から見る藍テン瑶族の伝度儀礼 その2. 道教
3. 学会等名 第99回ヤオ族文化研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 廣田 律子 (Ritsuko Hirota) 共同発表者: David Palmer・Joseba Estevez・Martin M. H. Tse・Huiwen Guo・Jiayue Sun
2. 発表標題 The “Tao Among the Yao”: Ethnographic and Textual Studies on the Rituals and Manuscripts of the Lanten Yao of Laos
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 廣田 律子
2. 発表標題 『大歌書』の本意－恋の歌－
3. 学会等名 第85回ヤオ族文化研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 内海 涼子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 國學院大學文学部浅野春二研究室	5. 総ページ数 110
3. 書名 資料報告 四組のミエン神像画 画像資料集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	丸山 宏 (Maruyama Hiroshi) (00229626)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	吉野 晃 (Yoshino Akira) (60230786)	東京学芸大学・教育学部・名誉教授 (12604)	
研究分担者	廣田 律子 (Hirota Ritsuko) (70260990)	神奈川大学・経営学部・教授 (32702)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	小塩 さとみ (Oshio Satomi) (70282902)	宮城教育大学・教育学部・教授 (11302)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協 力 者	内海 涼子 (Utsumi Ryouko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関